

📅 1月15日 火の国ハイツ

熊本県保険者協議会特定健診・特定保健指導担当者研修会（実践編）

メタボの保健指導 ～事例から代謝のメカニズムを学ぶ～

熊本県保険者協議会の開催。熊本県内の医療保険者や健診・保健指導機関から、保健師・看護師・栄養士・運動指導士・事務職など260人が参加した。同協議会保健事業部会長である向山照美氏（美里町住民課長）の挨拶に続き、熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課の柳田氏から「第3期特定健康診査等実施計画期間における特定健診・特定保健指導の運用の見直し」について説明があった。



その後、沖縄県合同会社保健指導センター南城代表の井上優子保健師による講義が行われた。井上氏は市町村保健師を経て、現在は、協会けんぽ・共済組合の保健指導の委託を受けて働き盛りの人の保健指導を実施しており、その経験から若い人への保健指導のポイント等も織り交ぜながら講演した。特に、メタボ該当者への保健指導では、インスリンの働きと健診結果とのつながりを理解してもらうことが重要であることから、インスリンの視点で健診データを読み取ることを中心に学習が進められた。

また、メタボ該当者への保健指導では食事が重要であるが、生活を尋ねる保健指導は嫌がられることを例に挙げて、「問診項目をそのまま尋ねるのではなく、健診結果から考えられることを伝え、それを受けて本人が教えてくれることや本人の反応を受けた保健指導としていくことが大事」などと話した。

受講者からは「インスリンの視点でデータを読み取ること、指摘するのではなく正常を示すことを学んだ」「メカニズムプラス背景を聞き取り、それに合わせて考えてもらうことが大切だと分かった」「保健指導教材の使い方が勉強になった」「生活への入り方が自然で、保健指導を受ける人も嫌な気分にならないと思った」などの感想が寄せられた。